

23 田沼時代と寛政の改革

- (1) 18世紀後半の老中で、幕府財政を立て直すため、株仲間の結成を認めるかわりに営業税を納めさせたり、輸出品である銅の専売制を行ったり、蝦夷地の調査を行って俵物の輸出を拡大するなどした人物の名を答えなさい。
()
- (2) (1)の人物が新田開発のために干拓を行ったのは手賀沼とどこか？
()
- (3) 1782年に起きたききんは、翌年のある山の噴火などの影響もあり全国に拡大した。a)このききん、b)噴火した長野県と群馬県の県境にある山の名をそれぞれ答えなさい。
(a) (b)
- (4) (1)の人物が失脚した翌年、8代将軍吉宗の孫で白河藩主であった人物が老中になった。この人物の名を答えなさい。
()
- (5) (4)の人物は、湯島の学問所で朱子学以外の学問を教えることを禁止した(寛政異学の禁)。この学問所の名を答えなさい。
()
- (6) (4)の人物は儉約令を出すとともに、生活苦の旗本や御家人を救済するため、彼らがある商人からしていた借金を帳消しにする法令(棄捐令)を出した。元は旗本、御家人の年貢米を換金していたが、金融業も営んで富裕になったこの商人を何というか？
()
- (7) 寛政異学の禁、棄捐令のほか、農村復興のため江戸などに出てきていた農民を農村に帰したり、凶作やききんに備えて各地に倉をつくって米を貯蔵させたりするなど、(4)の人物が行った政治改革は何と呼ばれるか？
()
- (8) 1792年に蝦夷地の根室にある国の使節が来航した。a)使節を派遣した国、b)使節の名をそれぞれ答えなさい。
(a) (b)
- (9) (8-b)の使節は漂流民を幕府に引き渡すとともに、日本との通商を求めた。幕府に引き渡された漂流民の名を答えなさい。
()
- (10) 1798年、幕府は蝦夷地に調査隊を派遣した。調査隊は択捉島に到達し、「大日本恵登呂府」の標柱を建てた。この調査隊に加わっていた人物を2人挙げなさい。
() ()
- (11) 1804年、通商を求めて長崎にある国の使節が来航した。a)使節を派遣した国、b)使節の名をそれぞれ答えなさい。
(a) (b)
- (12) (11-b)の使節の求めに対し、幕府は琉球、朝鮮、オランダ、中国以外の国との外交、通商関係を持たないことが「先祖伝来の法律」であるとして拒絶した。「先祖伝来の法律」という意味の言葉を漢字2字で答えなさい。
()
- (13) 19世紀初めに樺太を探検し、樺太が島であることを確認した人物の名を答えなさい。
()
- (14) 17世紀後半から、諸藩は藩財政を立て直しのために藩独自の紙幣を発行した。これを何というか？
()

(15) 18世紀後半から、諸藩はそれぞれの事情にあわせた藩政改革に取り組んだ。米沢藩のうるし、熊本藩のはぜ、薩摩藩の砂糖など、藩が特産物の生産を奨励し、販売を独占する制度を何というか？

()

(16) 藩政改革に取り組んだ藩主のうち、a)米沢藩、b)熊本藩の藩主の名をそれぞれ答えなさい。

(a) (b)